

平成29年度事業報告書

学校法人 二松學舎

目 次

I	法人の概要	1
II	事業の概要	5
III	財務の概要	19
	監査報告書	26

I. 法人の概要

1. 沿革

二松学舎は、明治 10 年に先師中洲三島毅により「漢学塾二松学舎」として創設され、建学の精神「己ヲ修メ人ヲ治メ一世ニ有用ナル人物ヲ養成スル」により東洋学の確立と新時代を担う国家有為の人材の育成を目指した。その後、昭和 3 年には旧制専門学校となり、国語・漢文の教員養成に注力し、「国漢の二松学舎」として東洋の精神文化を基盤とし、人間教育の実践に努めてきた。戦後復興期、昭和 24 年に新制大学に移行、文学部国文学科・中国文学科の単科大学として伝統を堅持し発展、さらに平成 3 年に国際政治経済学部を開設した。一方、昭和 23 年に二松学舎大学附属高等学校が、昭和 44 年に二松学舎大学附属沼南高等学校(現附属柏高等学校)が設置され、平成 23 年 4 月、附属沼南高等学校は附属柏高等学校に校名を変更し、新たに二松学舎大学附属柏中学校を開校した。平成 24 年 10 月に創立 135 周年を迎え、これを機に、二松学舎のあるべき将来像を定めた「長期ビジョン(N'2020 Plan)」公表し、これに基づく行動計画である「アクションプラン」を計画し、平成 25 年度より推進している。さらに、二松学舎創立 140 周年を機に新長期ビジョン「N'2030 Plan」を策定し 2030 年に向けた本法人全体の指針として公表した。現在、設置する学校と学部・学科等の概要は以下のとおりである。

2. 所在地

学校法人二松学舎

102-8336 東京都千代田区三番町6番地16

(1) 二松学舎大学

九段キャンパス

102-8336 東京都千代田区三番町6番地16

柏キャンパスF

277-8585 千葉県柏市大井2590番地

(2) 二松学舎大学附属高等学校

102-0074 東京都千代田区九段南2丁目1番32号

(3) 二松学舎大学附属柏高等学校

277-0902 千葉県柏市大井2590番地

(4) 二松学舎大学附属柏中学校

277-0902 千葉県柏市大井2590番地

3. 設置する学校・学部・学科等

(1) 二松学舎大学

大学院

文学研究科

国際政治経済学研究科

文学部

国文学科

中国文学科

都市文化デザイン学科

国際政治経済学部

国際政治経済学科

国際経営学科(平成 30 年 4 月より)

(2) 二松学舎大学附属高等学校

(3) 二松学舎大学附属柏高等学校

(4) 二松学舎大学附属柏中学校

4. 入学定員・学生数等の状況

<大学院>

(単位:人)

研究科	専攻	博士前期課程(修士課程)			博士後期課程(博士課程)		
		入学定員	収容定員	学生数	入学定員	収容定員	学生数
文学研究科	国文学専攻	16	32	23	5	15	6
	中国学専攻	16	32	11	5	15	7
	計	32	64	34	10	30	13
国際政治経済学研究科	国際政治経済学専攻	10	20	5	—	—	—
合計		42	84	39	10	30	13

<学部>

(単位:人)

学部	学科	入学定員	収容定員	学生数
文学部	国文学科	260	1,040	1,289
	中国文学科	90	510	588
	都市文化デザイン学科	50	50	55
	計	400	1,600	1,932
国際政治経済学部	国際政治経済学科	200	800	934
合計		600	2,400	2,866

<中学校・高等学校>

(単位:人)

学校名	学科	入学定員	収容定員	生徒数
二松学舎大学附属高等学校	全日制普通科	300	900	721
二松学舎大学附属柏高等学校	全日制普通科	280	840	944
二松学舎大学附属柏中学校	全日制普通科	102	306	137
合計		682	2,046	1,802

(注)人数は平成29年5月1日現在の値を示す。

5. 役員等・教職員の概要

(1) 役員等・教職員数

- ①役員等 理事 11人 (うち、理事長1人、常任理事3人)
 監事 2人
 評議員 24人 (理事を含む)

②教職員

(単位:人)

教員	二松学舎大学	76
	二松学舎大学附属高等学校	39
	二松学舎大学附属柏高等学校	44
	二松学舎大学附属柏中学校	15
	計	174
職員	二松学舎大学	79
	二松学舎大学附属高等学校	6
	二松学舎大学附属柏高等学校	4
	二松学舎大学附属柏中学校	
	計	89

(注)人数は平成29年5月1日現在の値を示す。

表中の教員には非常勤教員を含まない。非常勤教員の人数は、二松学舎大学 191 人、二松学舎大学附属高等学校 20 人、二松学舎大学附属柏高等学校 35 人、二松学舎大学附属柏中学校 1 人である。

(2) 役員

役 職	氏 名
理 事 長	水 戸 英 則
常 任 理 事	五 十 嵐 清
常 任 理 事	西 畑 一 哉
常 任 理 事	菅 原 淳 子
理 事	本 城 学
理 事	芝 田 周 一
理 事	江 藤 茂 博
理 事	中 山 政 義
理 事	小 町 邦 明
理 事	野 口 誠 之
理 事	大 野 信 行
監 事	溝 田 泰 夫
監 事	根 本 義 尚

(3) 評議員

氏 名	
菅 原 淳 子	小 林 公 雄
本 城 学	七 五 三 和 男
芝 田 周 一	齊 藤 定 市
山 崎 正 伸	五 十 嵐 清
江 藤 茂 博	小 町 邦 明
中 山 政 義	水 戸 英 則
真 瀬 垣 成 隆	野 口 誠 之
島 田 達 彦	大 野 信 行
高 林 由 美 子	小 出 秀 文
高 柳 幸 雄	西 畑 一 哉
菅 原 義 博	渋 澤 健
廣 田 克 己	野 島 透

(注)平成 29 年 5 月 1 日現在

(4) 大学・両附属高等学校の主要役職者

役 職	氏 名
二松学舎大学	
学 長	菅 原 淳 子
副学長	高 野 和 基
副学長	磯 水 絵
大学院文学研究科長	江 藤 茂 博
大学院国際政治経済学研究科長	中 山 政 義
文学部長	江 藤 茂 博
国際政治経済学部長	中 山 政 義
附属図書館長	土 屋 茂
国際交流センター長	塩 田 今 日 子
情報センター長	瀧 田 浩
教職支援センター長	若 井 田 正 文
キャリアセンター長	佐 藤 晋
東アジア学術総合研究所長	牧 角 悦 子
学務局長	瀧 田 浩
二松学舎大学附属高等学校	
校 長	本 城 学
副校長兼教頭	真 瀬 垣 成 隆
二松学舎大学附属柏高等学校	
校 長	芝 田 周 一
副校長兼教頭	七 五 三 和 男
二松学舎大学附属柏中学校	
校 長	芝 田 周 一
副校長兼教頭	島 田 達 彦

(注)平成 29 年 5 月 1 日現在

(5) 事務組織の主要役職者

役 職	氏 名
二松学舎大学	
事務局長	小 町 邦 明
総務・人事部長	菅 原 義 博
企画・財務部長	西 畑 一 哉
大学改革推進部長	飛 田 正 太 郎
教学事務部長	西 園 隆 士
附属図書館事務部長	高 柳 幸 雄
キャリアセンター事務部長	高 林 由 美 子
附属高等学校	
事務長	大 淵 俊 明
附属柏中学・高等学校	
事務長	横 谷 孝 子

(注)平成 29 年 5 月 1 日現在

6. 最近の入学者数、在籍者数、納付金、教職員数の状況

(1) 入学者数

(単位:人)

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
大 学	大学院	14	16	14	18	21
	学部	711	713	697	730	728
附属高等学校		240	262	251	249	233
附属柏高等学校		308	344	358	314	291
附属柏中学校		64	61	43	43	55
計		1, 337	1, 396	1, 363	1, 354	1, 328

(2) 在籍者数

(単位:人)

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
大 学	大学院	40	44	43	44	52
	学部	2, 949	2, 860	2, 826	2, 830	2, 866
附属高等学校		682	739	745	755	721
附属柏高等学校		790	899	997	1, 004	944
附属柏中学校		185	166	162	141	137
計		4, 646	4, 708	4, 773	4, 774	4, 720

(3) 1人当り学生生徒等納付金(平成 29 年度)

(単位:千円)

			入学金	授業料	施設費等	計
大 学	大学院	前期・修士	250	520	100	870
		後期・博士	250	520	70	840
	学部	280	746	250	1, 276	
附属高等学校			220	372	208	800
附属柏高等学校			150	300	330	780
附属柏中学校			200	348	330	878

(4) 本務教職員数

(単位:人)

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
大学教員	71	74	74	73	76
高等学校教員	75	74	76	81	83
中学校教員	11	13	15	14	15
事務職員	84	85	92	99	94
計	241	246	257	267	268

(注)各年度5月1日現在

教職員数は、①学生数に対応する基本的な教職員数の維持、②大学院の教育・研究のための適正人員の確保、③教育・研究支援体制の充実を視野に入れた適正人員の確保、④専任職員と補助職員の業務内容などの雇用制度等を基に決定している。

II. 事業の概要

1. 法人(理事会・評議員会など法人事項に係る管理運営)

(1) 長期ビジョン「N'2020 Plan」による改革の推進

二松学舎創立135周年(平成24年10月)を機に長期ビジョン「N'2020 Plan」を策定した。平成25年度より、これに基づく「アクションプラン」に則って大学・両附属高校・中学校の具体的な改革を推進している。アクションプランは管理体制の整備、経営層と部課長のミーティング、アクションプランのPDCAサイクルによって進捗管理を行っており、これまでの成果として、理事・教職員等が本学の将来の姿、進むべき方向について共通の認識を持つようになり、各部門で改革を進める意識が強くなったこと、各課長が各課の課題を多面的・巨視的に把握するようになり、現場だけでは解決が難しい課題を組織へ吸い上げる体制が確立された。なお、具体的な成果等詳細は「アクションプラン年次報告書」に取りまとめ、パンフレット及びホームページで公表している。

◆平成29年度アクションプランの概要

- ① 創立140周年記念事業関係
- ② 中高大の連携強化・高大接続の実質化
- ③ 文学部の改革(定員増、英語の能力別クラス制導入)
- ④ 国際政治経済学部の改革(新学科の開設準備、定員増、体制整備)
- ⑤ 国際交流の推進(語学センターの設置検討、短期海外語学研修の実施地域拡大)
- ⑥ 研究活動の推進(私立大学戦略的基盤形成支援事業、「漱石アンドロイド」プロジェクト)
- ⑦ 学生満足度調査結果を受けた課題の改善

(2) 創立140周年記念

平成29年10月10日(火)、本学は創立140周年を迎え、二松学舎創立140周年記念式典、また式典終了後には講演会及びトークイベントを二松学舎大学九段1号館の中洲記念講堂で挙行し、当日は、530人を超える多くのご来賓の方にご出席いただいた。

(3) 新長期ビジョン「N'2030 Plan」の策定と公表

二松学舎創立135周年を機に定めた「長期ビジョン(N'2020 Plan)」の基本方針を引き継ぎ、私学を取り巻く環境の激変に対応するため、役員、教職員、学生・生徒、父母、取引先などステークホルダーの意見を基に2030年に向けた本法人の進むべき指針として「新長期ビジョン(N'2030 Plan)」を策定・公表した。①N'2020 Planの基本理念、フレームワーク等の踏襲 ②教育の方向性と充実策 ③包括的學生・生徒支援体制の構築 ④キャンパス整備 ⑤財政、人材育成、評価制度、組織、戦略的広報体制等の在り方 の理念・方針に沿って、5年間の「新アクションプラン」として目標を設定し達成に向け全学的に取り組んでいく。

(4) 施設設備の整備

大学では、新たに大学九段5号館として校地及び校舎を取得したほか、図書館情報管理システムのクラウド化、大学九段3号館教室のICT機器の更新、大学柏校舎では貯水槽及び柏1号館・4号館高架水槽の耐震化、柏1号館空調設備及び5階大教室AV設備の更新、学生食堂・売店の改修整備及び外階段新設工事等を実施した。附属高校では九段校舎外壁の補修工事、生徒増加に伴う教室の改修及び教育研究用機器備品の整備を実施し、附属柏中学・高校では貯水槽・西校舎高架水槽の耐震化、無線LANの整備、教員用パソコンの更新等を行った。

(5) 被災学生への支援等

大学において、平成23年3月11日に発生した東日本大震災並びに福島第一原子力発電所事故に伴う被災特別奨学生に対する学納金の減免措置を引き続き実施した。

(6) イベント

① 創立140周年事業

○三島中洲墓参の会(5月13日)

静岡県駿東郡小山町

○140周年記念式典(10月10日)

ウェルカムレセプション

漢学塾二松學舎の再現ジオラマ展示

公式キャラクター「ねこ松」による来場者出迎え

式典 会場:九段1号館中洲記念講堂

トークイベント

講演「アンドロイド研究最前線ー人間とは何かー」 大阪大学大学院教授 石黒浩

対談「漱石アンドロイドと今後の社会」

大阪大学大学院教授 石黒浩

学習院大学大学院教授 夏目房之介

漱石アンドロイド

文学部教授 山口直孝

②「漱石アンドロイド」プロジェクト

生誕150年記念 漱石と京都ー花咲く大山崎山荘ー(4月13日～16日)

アサヒビール大山崎山荘美術館(京都)

私学経営研究会 本学見学会での披露(6月16日) 九段1号館

夏休み子ども研究会 自己紹介など披露(8月5日) 柏キャンパス

創立140周年記念式典 祝辞、トークイベント参加(10月10日) 九段1号館中洲記念講堂

愛媛県松山市での各種講演(11月23～26日)

松山市役所 市長への表敬訪問(マスコミ向け)など

坂の上の雲ミュージアム 館長、愛媛大学教授との鼎談、『坊ちゃん』朗読など

県立松山東高校「明教館」での講演、生徒との質疑応答、愛媛朝日テレビ出演など

私立済美平成中等教育学校 自己紹介、『坊ちゃん』披露、生徒との質疑応答など

いよてつ高島屋スカイホール いよてつ社長との対談、朗読、記念撮影など

松山市立子規記念博物館「坊ちゃん文学賞」表彰式観覧、対談、記念撮影など

テレビ、新聞など報道・取材への対応

出版社への画像・動画提供

③『論語』の学校 - RONGO ACADEMIA - (10月28日)

会場:九段校舎1号館中洲記念講堂 参加者:313人

『論語』入門 文学部教授 牧角悦子

渋澤栄一の『論語と算盤』で未来を拓く シブサワ・アンド・カンパニー代表取締役 渋澤健

近世の中国と日本、さまざまに読み解かれる『論語』 文学部特別招聘教授 市來津由彦

素読実践 顧問・名誉教授 石川忠久

④公開講座等

■柏キャンパス

○生涯学習講座（年間 56 講座 全 10 回）

春 Semester（5 月 8 日～7 月 14 日）29 講座 全 5 回

秋 Semester（9 月 25 日～12 月 15 日）27 講座 全 5 回

・国文学

転換期の人間像、男と女、日本芸能論、日本文学史つれづれに

・中国文学

名詩鑑賞、杜甫詩をよむ、漢文購読講座、漢詩の旅 シルクロードの詩

・書道

楷書のいろいろ（褚遂良の書）、かな書き入門、書かない書道、唐の懷素の『自叙帖』を臨書する

・語学

初級英会話、初級中国語、ドラマで学ぶやさしい韓国語

・芸能・演劇

20 世紀シネマ「桃源郷」、歌舞伎に見る笑いあり涙ありの親子の諸相

・経済・教養・法律

シルクロードの魅力を語る、倭国（日本）と大陸の交流史、江戸に学ぶ、障害者問題中心に共生社会を探る、生殖補助医療による親子関係の成立、図書館の起源

・国際関係

韓国の現状と日韓関係、続・ドイツ入門

・スポーツ・健康

フィットネス・トレーニング、日常生活と食事

■九段キャンパス

○創立 140 周年記念「二松学舎の奈良絵本を現代に再生！—江戸時代の絵本を次代に贈る—」（7 月 8 日・9 日）

会場：三省堂書店池袋本店 4 階イベントホール

本学学生による奈良絵本読み聞かせ

平曲（琵琶）上演 前田流平家詞曲相伝者 新井素子 内田亜紀

解説 文学部教授 磯水絵

○学んで歩こう江戸の街～体験ツアー付き～（3 月 7 日～9 日）

『硝子戸の中』の江戸と東京—夏目漱石の原風景を歩く 文学部教授 山口直孝

夏目漱石の漢詩 文学部教授 牧角悦子

体験ツアー 漱石ゆかりの地探訪 文学部教授 山口直孝

会場：九段 3 号館 3021 教室

2. 大学(学部・大学院)

(1) 教育・研究の推進

①文学部の改革(新学科の開設)

文学部がこれまで培ってきた日本文学・文化研究をベースに、新しいメディアやコミュニケーションスキルを習得し、価値のある文化を見出し、世界へと発信できる人材を育成するため、新たに都市文化デザイン学科を設置した。

②東アジア学術総合研究所

本学の研究プロジェクト『近代日本の「知」の形成と漢学』が、【文部科学省】平成 27 年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に採択され、SRF 事業として 3 年目となった。

〔期間〕平成 27 年度～平成 31 年度(5 年間)

〔内容〕日本の近代化が進行した19世紀～20世紀前半、「漢学」(漢文による学び)が学術と教学に解体・再編される過程において、「漢文」による研究と教育を通して、近代日本がどのような「知」を形成し、それによってどのような人間形成・社会秩序形成をしたかを実証する。

平成16年度に採択された21世紀COEプログラムは平成21年3月に5年間の研究支援期間の後、東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室が引き続きCOEの事業を推進しており、これまで、漢文文献資料の調査・収集とデータベース化、情報公開、国際シンポジウムや海外研究者の招聘による講演会・公開講座・講習会の開催など、広範で活発な研究教育活動を行い、人材育成にも力を注いでいる。また、海外での日本漢文講座をヨーロッパ、アジア諸国で展開するほか、インターネットによる授業も行っている。

<海外講座>

イギリス ケンブリッジ大学 エマニュエルカレッジ ハロッズルーム (8月7日～19日)

サマースクール 江戸の書き言葉

ハンガリー 国立エトヴェシュ・ロラード大学 (10月16日～20日)

大学院集中講義 漢文訓読および漢文学に関する講義・講読

一般市民向け講演会 日本語学習者のみなさんへ 漢字からのメッセージ

上級日本語学習者向けセミナー 漢文資料から読み解く 江戸の庶民生活

イタリア カ・フォスカリ大学 (9月25日～11月15日)

ネット授業 Introduzione al “kanbun”

ドイツ ハイデルベルク大学 (10月27日～2月9日)

ネット授業 Quellenlektüre und -analyse(Master):Einführung in Kanbun

<講演会>

日本漢文教育研究推進室主催講演会

キリタン版に見える美德と悪徳 翻訳と文化理解 (4月22日)

会場:九段1号館201教室

<シンポジウム>

公益財団法人日本易学連合会主催、二松学舎大学SRF共催

易学の展開と近代 易を現代に生かす(6月25日)

会場:九段1号館中洲記念講堂

二松学舎大学SRF・次世代研究発表会(7月8日)

会場:九段1号館807教室

二松学舎大学SRF・早稲田大学中国古籍文化研究所共催

漢学者記念館会議(7月28日)

会場:九段1号館201教室、11階会議室

二松学舎大学SRF・浙江工商大学東方語言文化学院共催

「日本漢学」上級セミナー(8月21日～30日)

会場:浙江工商大学下沙校舎東宝言語文化学院

二松学舎大学SRF・大連大学共催(9月16日)

日本近代の「漢学」教育・研究をめぐって—制度・研究・文芸

会場:大連大学

二松学舎大学SRF・成均館大学校 国際学術交流会(9月21日)

東アジア学としての漢学、その相互研究について

会場:九段1号館507教室

二松学舎大学SRF・鄭州大学 国際学術交流会(9月22日)

会場:九段1号館中洲記念講堂

現代の政策を科学するⅡ(10月21日)

会場:九段校舎1号館202教室

近代日本の漢学と三島中洲(10月21日)

会場:九段校舎1号館201教室

第2回東アジア日本研究者協議会(EACJS)国際学術大会(10月28日・29日)

会場:南開大学(中国・天津市)

二松学舎大学SRF・檀国大学校 国際学術交流会(1月15日)

会場:九段1号館11階会議室

二松学舎大学SRF・公益財団法人渋沢栄一記念財団主催シンポジウム

会場:新溪園(倉敷市)

■私立大学学戦略的研究基盤形成支援事業『近代日本の「知」の形成と漢学』

レオン・ド・ロニー資料調査報告会(2月24日)

会場:ライデン大学アーセナル棟001号教室

近代漢学に関するワークショップ(2月28日)

会場:ボルドー・モンテーニュ大学

特別講座(4月8日、5月20日、7月1日・22日、10月21日、11月18日、12月16日、2月3日)

幕末・明治の漢詩 石川忠久 名誉教授

幕末・明治の漢文 佐藤保 名誉教授

会場:二松学舎大学九段4号館

■日本漢文教育推進室

<公開講座>

演習講座

漢籍書誌学、古文書解読講座、『故事談』の研究、『国語』の研究

前期4月10日～7月29日

後期9月14日～12月19日、1月9日～23日

■東アジア学術総合研究所共同研究プロジェクト

<ワークショップ>

幽霊の歴史文化学 文学と革命(2月10日)

会場:九段校舎1号館201教室

<学術シンポジウム>

『春秋左氏伝』と現代の中国学(2月21日)

会場:九段校舎1号館401教室

<刊行物>

「雙松通訊」第22号

「日本漢文学研究」第13号

『日本医家伝記事典-宇津木昆台『日本医譜』-』

近代日本漢学資料叢書2『柿村重松『松南雜草』』

新収資料展近代漢学の諸相

肥前鍋島藩諸文庫漢籍総合目録

漢文脈の漱石

日本医家伝記事典-宇津木昆台『日本医譜』-

③教員免許状更新講習の実施

教育職員免許法の改正に基づき、平成21年度より教員免許更新制度が導入された。これに伴い、本学卒業生教員をはじめ多くの教員を対象に免許状更新講習を開設し、本年度は8月7日～11日の日程で、最新の教育事情と子どもの発達・生活、教育課程の改善と学校運営、現代における生徒育成上の課題、現代文・古典・書道の教材と指導法などを主な講習内容として実施した。

④入学前教育・初年次教育の実施

新入生のモチベーションを高め、教育効果をより確かなものとするため、文学部・国際政治経済学部両

学部においてAO入試・推薦入試の合格者に対し「入学前教育」を、入学後の新生に対し学部ごとの「初年次教育」の実施や講演会などを開催した。

国際政治経済学部では入学時のプレースメント・テスト、英語習熟度クラス分けテストを実施し、両学部ともに、出口のレベルアップを目指すべく、初年次から「キャリア教育」の授業を開講し、正課「キャリア教育」と「就職支援講座」との連携を図っている。

⑤シンポジウム・講演会・展示会等の開催

本年度も国文学などの各種シンポジウムを開催し、本学の教育研究成果を学外へ広くアピールすると共に学内の活性化を図っている。大学資料展示室では二松学舎関係者の軸・書簡や近現代作家の初版本・草稿類など文学界にとって貴重な資料を収集し、年間を通して各種企画展を開催している。当年度は、夏目漱石関係資料の収集を行い、企画展示や講演会を行った。

■大学資料展示室企画展等

○九段キャンパス

<展示>

- 横溝正史の世界（4月17日～5月13日）
- 二松学舎に学んだ名士たち（6月1日～6月24日）
- 二松学舎の書道（7月10日～8月10日）
- 和本の世界（9月4日～9月23日）
- 夏目漱石展（10月11日～24日）
- 大正天皇と二松学舎（11月13日～25日）
- 三島中洲と近代 其五（12月4日～22日）
- 文学散歩 作家の草稿（1月22日～2月17日）
- 新収資料展 近代漢学の諸相（3月1日～22日）

<講演会>

- 父 横溝正史が愛した懐かしき成城(5月6日) 野本瑠美(横溝正史息女)
会場:九段校舎1号館201教室
- 二松学舎の漢学教育(12月16日) 文学部教授 町泉寿郎
会場:九段校舎1号館507教室

○柏キャンパス

<展示>

- 生涯学習講座関連資料(5月2日～7月28日)
- 二松学舎で学んだ作家たち(7月28日～9月30日)
- 夏目漱石 一文豪が残した作品ー(10月2日～11月30日)
- 古事記・日本書紀をよむ(12月4日～2月28日)
- ノーベル文学賞について知る(3月3日～4月28日)

<講演会>(11月11日)

- 漱石作品の魅力 ーことばの面白さを楽しむー 文学部教授 増田裕美子
会場:柏校舎1号館306教室

●柏市内大学図書館見学バスツアー(11月25日)

(柏市立図書館、開智国際大学図書館、東京大学柏図書館、二松学舎大学附属図書館(柏)、麗澤大学図書館)

●知的書評合戦 ビブリオバトル(11月25日)

会場:柏1号館306教室

■平成29年度柏市教職員研修講座(8月3日)

漢詩の楽しみ方 文学部教授 牧角悦子

会場:柏校舎1号館205教室

対象:柏市局職員30人

- 二松学舎大学卒業埼玉県教員の会(8月17日)
教科書に載る説話—『宇治拾遺物語』を中心に— 文学部教授 磯水絵
会場:九段1号館807教室 参加者:22人
- 二松学舎大学卒業神奈川県教員の会(8月19日)
「小説の中の〈女〉たち—明治期女子教育と文学—」 文学部教授 五井信
会場:九段1号館202教室 参加者:21人
- 二松学舎大学卒業茨城県教員の会 国語(古典)講習会・情報交換会(8月29日)
万葉ひとの自然観 文学部教授 多田一臣
会場:ホテルビュー水戸 参加者:講習会73人、情報交換会25人
- 二松学舎大学教育研究大会(10月22日)
講演:漱石と子規—その贈答詩をよむ— 名誉教授 吉崎一衛
分科会:「特別支援教育」、「中学校 国語」、「高等学校 国語」
会場:九段校舎1号館中洲記念講堂ほか 参加者:226人
- 文学部シンポジウム(7月8日)
文学部の現在 —東アジアの高等教育 文学・外国語学・古典学／儒学 (7月8日)
会場:九段1号館202教室 来場者70人
東アジアの文学部の現在
東アジアの高等教育(古典学／儒学)の現在
- 全国学生・生徒文芸コンクールの開催(大学生・中学生・高校生対象)
入賞者発表:10月10日 表彰式:11月23日
学生 漢詩部門(最優秀賞1件 優秀賞2件 佳作3件 入選5件)
書道部門(最優秀賞1件 優秀賞2件 佳作3件 入選5件)
文芸書書評部門(最優秀賞1件 優秀賞4件 佳作7件)
生徒 漢詩部門(最優秀賞1件 優秀賞2件 佳作3件 入選5件)
高校生書道部門(最優秀賞1件 優秀賞2件 佳作3件 入選5件)
中学生書道部門(最優秀賞1件 優秀賞2件 佳作3件 入選5件)
両附属高校感想文部門(最優秀賞1件 優秀賞2件 佳作3件)
- ホームカミングデー(11月4日)
 - (1) 創立140周年記念展示・映像上映会
 - (2) 漱石アンドロイド研究室展示
 - (3) 交流サロンでお目にかかりましょう 卒業生相互交流、同期会、クラブOB・OG会など
 - (4) 公式キャラクターねこ松との記念写真撮影会
 - (5) 卒業生作品展 書・篆刻・写真・絵画等の展示(10月30日～11月4日)
- 卒業生名刺交換会(異業種交流会)(2月24日)
会場:ホテルグランドパレス 白樺の間 参加:120人(卒業生67人、学内関係者59人)
- FD(ファカルティ・ディベロップメント)・SD(スタッフ・ディベロップメント)
大学職員力判定試験 基礎力向上コース(7月14日・15日)
大学職員サポートセンター
会場:芝浦工業大学 芝浦キャンパス801教室
大妻女子大学とのSD協定に基づく合同事務職員研修会
業務改善研修(9月1日)
会場:九段1号館201教室
教育と経営に関する講演会(9月11日)
会場:九段校舎401教室
マネジメント改革、3P教育の質向上、SD義務化を考える 桜美林大学教授 篠田道夫
専任教職員対象 参加者:104人

管理職対象評価者研修 807 教室 エデュースキャリアデザイン
FD講演会

(2月16日)

教職員が苦慮する学生への理解と対応—メンタル問題と発達障害を中心にして

山梨英和大学教授(元副学長)・臨床心理士(カウンセラー) 窪内 節子

大学教育学会大会参加報告

国際政治経済学部教授 本多 峰子

文学部専任講師 谷島 貫太

大学教育学会課題研究集会参加報告

文学部教授 塩沢 一平

(2月21日)

多様な学生(発達障害やメンタル不調等)への授業支援について

山梨英和大学教授(元副学長)・臨床心理士(カウンセラー) 窪内 節子

⑥図書館の充実等

図書館利用者が図書館の資料を参照しながらレポートや論文を作成できるよう、九段校舎図書館本館のほか、2号館にラーニング・コモンズを設置している。グループワークエリアや、豊富なPC機器を利用した情報検索エリア、多面プロジェクターや電子黒板が整備されたプレゼンテーションルームなどが配置され図書館とも行き来が可能となっており、利便性の高い学習環境を整備している。また、本学図書館では所蔵している貴重資料のデジタル化を進めており、これまでにデジタル化した『二十一代集』『土佐日記』などの和本や『周易本義通釋』『融堂書解』などの漢籍について、デジタル資料を公開している。

⑦大学の授業に関するアンケートの実施

大学の自己点検・評価活動の一環として、授業における学生の学習成果を教員が確認し授業の改善、学習の動機付け・習慣付け・学習意欲の向上および活用を探る一助とするため、「学生による授業アンケート」を実施している。学生の授業に対する意識調査・分析により、サービス向上や大学全体の今後の教育改善に役立てる。

⑧学術研究支援等の充実

本学卒業生教員の教育実践支援、教職志望の学生への更なる支援と併せて教育実践に関する総合的な研究調査及び研修等を行うことで広く教育界に貢献することを目的に「教職支援センター」を設置している。同センターでは、本学の卒業教員とのネットワーク強化、教職に関する様々な情報収集と提供、教員採用試験合格講座の開講をはじめ、論作文の添削指導、模擬面接・個別進路相談などにより、教職志望学生の支援を実施している。また、東アジア学術総合研究所では、シンポジウムやワークショップの開催、共同研究プロジェクトの推進および研究成果報告書の刊行を支援している。

⑨地域連携

地域連携及び地域貢献活動の推進・強化を目的として、柏キャンパスに二松学舎大学地域連携室を設置している。当年度は、アクションプランの課題である地域連携、防災対策強化を推進するため、5月および2月に柏キャンパス近隣町会による柏キャンパス見学会を開催し、避難場所(大学グラウンド)・避難施設(大学体育館)の見学、避難ルート確認、防災施設・備蓄物資の説明などを行った。

参加者:5月18日40人、2月18日150人

■柏・我孫子地区小学生対象勉強会

夏休みこども研究会 大学教授と奈良絵本を読む(8月5日・6日)

論語で学ぶ「英語の基礎力」「漢字の基礎力」(11月18日)

会場:柏キャンパス1号館501教室 参加者:小学5~6年生・中学生・保護者120人

冬休み寺子屋道場 書き初め勉強会(1月8日)

会場:大学柏1号館501教室 参加者:柏市・我孫子市の小学生84人

■「柏市の成り立ち」柏市教育委員会との共催講演会(3月20日)

会場:柏キャンパス1号館501教室

講演「手賀沼は残った(史料にみる柏の歴史)」 柏市学芸員 高野博夫
「八代将軍吉宗と小金枚」 元国際政治経済学部講師 松尾政司

■ 柏市教育委員会との共催による大学連携講座(8月3日)

漢詩の楽しみ方 文学部教授 牧角悦子

会場: 柏キャンパス1号館 柏市立小中学校等の教員参加者 29人

■ 千代田区地域との連携

千代田地域連携協議会 第1回:7月20日、第2回:3月16日

会場: 九段1号館 1201会議室

⑩ 他大学・高等学校との連携協定

平成29年10月6日、教育方針、生徒・保護者による学校見学や情報交換その他友好関係の確立、維持継続を目的として成立学園中学・高等学校との特別連携協定を締結した。

平成29年9月27日、教育研究、社会貢献の各分野における連携及び情報を交換、教職員、学生を含めた大学間の相互交流、施設の共同利用など両大学の教育研究の振興に資するため岡山商科大学との大学間相互交流協定を締結した。

< 刊行物 >

「二松学舎大学附属図書館 季報」第100号～第101号 二松学舎大学附属図書館

二松学舎創立140周年記念 特別展 夏目漱石展他二松学舎コレクション図録

「教職支援センターだより」第14号 二松学舎大学教職支援センター

「二松学舎大学国際政経論集」第24号 二松学舎大学国際政治経済学部

「二松学舎大学論集」第61号 二松学舎大学文学部

「二松学舎大学東アジア学術総合研究所集刊」第48集 東アジア学術総合研究所

「陽明学」第28号 二松学舎大学東アジア学術総合研究所陽明学研究室

「国際交流」第40号 二松学舎大学国際交流センター

「二松学舎新聞」第72号～第74号 学校法人二松学舎

「三島中洲と近代 其五 - 二松学舎の漢学教育」 二松学舎大学附属図書館

「學」第47号～第49号 学校法人二松学舎

「漱石アンドロイド」プロジェクト 2017年度共同研究報告書 二松学舎大学・大阪大学・ATR

「二松」第32集 二松学舎大学大学院文学研究科

「二松詩文」第40巻第3号～第41巻第2号 二松詩文会

「国際政経」第23号 二松学舎大学国際政経学会

「人文論叢」第99輯・第100輯 二松学舎大学人文学会

「水木かおる記念文庫だより」第9号 二松学舎大学附属図書館(柏) 等

(2) 学生支援

① 施設の拡充

学生サービス並びに施設の利便性の向上の面で、新たに校舎(九段5号館)を取得した。5号館については、既存のテナントビルを購入したため、現在入居中のテナントがあるうちは、9階建てビルのうち、3フロアのみを改修整備し、教室や研究室として利用する。将来的に全てのテナントが退出した後、校舎を新築する予定としており、教育研究環境の更なる充実を見込んでいる。

② 学生ポータルサービス・ポートフォリオ

本学では、学外から従業や学生生活に関する情報にアクセスが可能な学生ポータルサイトを開設している。また、学生が自らの目標の達成度を確認し意欲的・継続的に学習に取り組むことができるよう、ポートフォリオシステムを構築している。

③ 奨学金制度の拡充

学生生徒の就学意欲の維持、退学者の減少や学生生徒募集のためにも、奨学金制度の拡充が重要であり、給付および貸与奨学金制度を設けており、奨学生(給付・貸与)、特待生(中洲賞)、二松学舎サ

ービス株式会社特待生、入試奨学生、外国人特別奨学生、郭火盛奨学生、外国人研究奨励生、松苓会奨学生等奨学生度を拡充している。

④PROG テストの導入

当年度から「PROG テスト」(Progress Report On Generic skills)を導入し、学生の「大卒者として社会で求められる汎用的な能力・態度・志向」、いわゆるジェネリックスキルのどの程度身に付いているかを客観的に測定し、自分の強みや弱みを知り、自己認知(メタ認知)を高める工夫も行っている。

⑤就職・進学支援等

キャリアセンターでは、4年間のキャリア教育プログラムを構築し、1年次から正課授業との連携およびキャリアカウンセラーによる相談の実施により学生のサポート・フォローを行っている。履歴書、ES作成や企業訪問等就職活動全般にわたるガイドブック「キャリアガイド」を作成、3年次生全員に配付し、就職活動への支援ツールとして活用している。自己発見(職業適性)検査をはじめ、公務員試験対策講座の開講、合同企業説明会(創縁会)、企業研究セミナーや業界セミナー、インターンシップ研修、ニュース検定対策や「キャリアデザイン講座」「社長弟子入りプロジェクト」「サービス介助士講座」などの各種講座を実施した。また、本学と地方自治体との間で、若者人材の育成・確保に向け、学生の UIJ ターン就職活動の支援について相互に連携・協力することに合意し、茨城県と「UIJ ターン就職促進に関する協定書」を平成29年9月26日、栃木県と「UI ターン就職促進に関する協定書」を、平成29年11月13日に締結した。これにより、茨城県・栃木県内企業の求人や事業活動の周知、学生向け説明会開催、インターンシップ支援等、地元就職・定着に係る連携を強化する。

教職支援センターでは、国語科教員養成特別授業や採用試験対策、教育実習生に対する現職教員による特別講演会の実施など、教員採用試験合格者の増員を図るための各種事業を実施した。また、教育研究大会をはじめ OB 教員の教育実践等の支援や教育情報等の資料収集および広報誌「教育支援センターだより」の発行などを行った。

大学院への進学については、キャリアセンターや入試課、指導教員が連携し、入試情報や資料の提供をするとともに、進路に関する相談を行っている。また、専門学校等への進学については、キャリアセンターで資料の提供や相談を行っている。

更に、「基礎ゼミナール共通テキスト」を作成し、初年次教育である基礎ゼミの段階から、自らのライフデザイン、キャリアデザインを考える場を設けることとした。

⑥国際交流

国際交流センターでは、海外協定校への派遣留学生および海外協定校からの交換留学生に対する就学支援、留学相談および外国語試験に関する情報提供および説明会の開催、その他国際交流イベント(研修旅行、留学生スピーチコンテスト等)を実施している。当年度は、日本文化を理解するためのイベントとして、国立劇場での歌舞伎鑑賞(7月9日)や忍野八海、富士山レーダードーム館ほか日本人学生、教職員との交流の機会として富士山近郊への日帰りバス研修(7月28日)を開催した。留学相談および外国語試験に関する情報提供および説明会の継続実施

<短期海外語学研修>

夏期 英国・ケンブリッジ大学マートンカレッジ(8月13日～9月3日)

アイルランド・ダブリンシティ大学(8月13日～9月3日)

春期 韓国・高麗大学(2月18日から3月10日)

アイルランド・ダブリンシティ大学(3月3日～25日)

<日本語・日本学特別プログラム>

日本語学科を有する中国浙江省の4大学(嘉興学院、嘉興学院南湖学院、浙江越秀外国語学院、浙江外国語学院)から1年間の交換留学生39人を受け入れ、本学柏校舎やアキバラボを有効利用して日本語能力や日本文化に関する知識の修得を目指す1年間のプログラムを実施した。

本学ではグローバル化に向けた取り組みとして、本学学生の海外留学機会を増やすため協定校拡充を図っており、新たな海外協定校として、英国のバッキンガム大学、中国の嘉興学院、浙江外国語学院、浙江越秀外国語学院、浙江農林大学、河南大学、鄭州大学と協定を締結した。今後、各大学との交流

協定に基づき、積極的に国際交流プログラムを推進していく。

⑦地区別父母懇談会

大学の現況、学習の状況、学生生活の状況、就職状況等についての説明や個別相談を行っている。平成 29 年度は、北海道札幌市、宮城県仙台市、茨城県水戸市、富山県富山市、大阪府大阪市、鳥取県米子市、東京都千代田区、長崎県長崎市、沖縄県那覇市(開催日程順)で開催した。

(3) 広報・学生募集対策

大学の概要・学部の各専攻・キャリアサポート・教職支援等の紹介をホームページよりデジタルパンフレット、映像配信、SNSによる情報発信などを行っている。少子化が進む中で、文学部・国際政治経済学部とも学生募集広報活動を見直し、学生募集広報戦略検討会議において、法人と大学とが一体となって広報戦略を検討し両学部の新学科設置に係る広報はもとより、本学の知名度向上やブランディングにも寄与するよう、140 周年記念を冠した広報を積極的に行った。また、本学公式キャラクターとして「ねこ松」を作成し、オープンキャンパス等で披露して来場者に好評を博しているほか、ねこ松のツイッターアカウントを作成し、情報発信を行っている。

多方面から入学者選抜実施方法(入試種別・科目・日程等)を検討し、地方会場および関東地区会場で大学説明会や入学試験を実施した。また、関東地区の志願者獲得の精度を上げるべく、東京、千葉、埼玉、神奈川、茨城の各地区別に学生募集特別委員を配置し学生募集対策の強化を図っている。さらに、本学卒業生教員との連携や地方からの志願者確保、オープンキャンパスや学校見学会の開催、一般入学試験のWeb出願で併願割引制度の導入、特待生制度・奨学金制度の拡充等により学生募集対策の強化を行った。

3. 附属高等学校

(1) アクションプランに基づく改革

アクションプランに基づき、①附属高等学校の「ビジョン」浸透 ②「人間(ひと)作り」・人格教育 ③愛校心の育成 ④国際化への対応 ⑤地域・社会との連携 ⑥教育の実践・充実等について検討し改革を推進している。

①新入生は入学後の宿泊オリエンテーションにて、建学の精神や校訓について理解を深める。また、毎月の校長講話において、建学の精神や校訓、人の生き方等に関係する話をしている。

②『論語』教育による人格形成を行っているほか、毎週生活目標としての「週訓」を決め、自己指導力を高める意識をして学校生活を送っている。

③始業式や終業式での校歌斉唱、野球部の甲子園出場の応援、学校周辺のフィールドワーク、九段の歴史・文化を知るための「九段学」講座など母校への帰属意識を高める機会をもった。

④英語検定受験、ニュージーランドへの海外語学研修、附属柏中高校と合同で実施している台湾語学研修などにより国際化への取り組みを行っている。

⑤九段坂・内堀通り・千鳥ヶ淵緑道等の通学路清掃ボランティア、九段2丁目町会の秋の祭り参加、本校周辺の歴史的建造物や国の施設等を体験学習するフィールドワークプログラムなどを行った。

⑥通常授業の他に本校教員による特別講習、予備校講師による特別講習「学び舎」、タブレット学習の導入、専任教員の研究授業の充実など授業力の向上を図った。

(2) 「集中体育」の実施

土曜日に「集中体育」を実施し、柏キャンパスの人工芝グラウンド、体育施設を利用した体育の授業を学年ごとに実施している。

(3) 教育学習環境の整備

家庭科調理室等特別教室の改修整備、会議室 AV 機器の更新、理科用機器備品の購入、九段校舎北面外壁の耐震補修工事を実施したほか、柏野球場フェンスの修理その他経年劣化による改修整備を実施した。また、生徒へのタブレット導入により、ICT活用能力を高め、生徒の学習理解度や学習意欲の向上を図った。

(4) 広報・生徒募集対策

ホームページでの学校紹介、学校案内パンフレット及び学校紹介 DVD のほか、ほぼ毎日更新される公式ブログ「学舎の窓ー校長室だよりー」による部活動や学園祭、各種学校イベントの様子など、様々な情報を発信するなど詳細な情報発信を行っている。また、入学時特待生制度を新設、Web 出願システムの導入、志願者増加および定着化のため中学・塾等訪問スタッフの配置や生徒・保護者対象説明会の増加、中学校教員・塾対象の学校説明会の実施など効果的な広報活動により生徒募集対策を行った。

(5) スクールカウンセラーの配置

生徒の悩みや保護者の相談に対応するため、専門的知識を有するスクールカウンセラーを校内に配置し、教育相談や学園生活のサポートなどメンタルケアの充実を図っている。精神的に不安定に陥りやすい高校生の時期を健やかに過ごせるよう、臨床心理士のカウンセラーが対応している。

(6) チューター制度の導入

進路指導の充実と生徒の進路意識の向上を目的に、チューター制度(課外活動講師)を継続して実施している。現役の大学生を講師に迎え、週3回、放課後に勉強の仕方や大学の様子など生徒の相談に応じるなど、教員とは一味違った形で進路に向け生徒をサポートしている。

(7) 学校評価委員会の開催

「学校評価」及び同校の経営・運営に資するため、有識者及び近隣地域住民より附属高等学校に対する意見を聴取し、学校評価委員会を開催した。

(8) 外部講師による補助講習の実施

生徒の学力および進学実績の向上と教育活動の活性化を図るため、通年(放課後)および夏期・冬期に特別講習「学舎(まなびや)」を設置し、3年生の特進・理系コース等を対象に、国語・数学・英語の受験対策講習を実施するとともに、1年生は中学教育補完講習、2年生は2学期から実力伸長講習を実施した。

(9) 校外学習等

- ・オリエンテーション:千葉県館山市(4月13日～15日)1年生
- ・歌舞伎教室:一条大蔵譚:国立劇場(7月12日)1年生
- ・芸術鑑賞(修学旅行事前指導):ミュージカルひめゆり(7月13日)2年生
- ・芸術鑑賞:ミュージカル アラジン(7月14日)3年生
- ・語学研修:ニュージーランド・ウェリントン(7月20日～8月2日)参加13名
台湾(8月17日～23日)参加5名
- ・勉強合宿:千葉県野田瀬戸クリアビューホテル(8月20日～23日)2年生、(24日～27日)1年生
- ・修学旅行:沖縄県(10月26日～29日)2年生
- ・雪国体験(スキー教室):長野県上田市菅平高原(1月24日～26日)1年生
- ・フィールドワーク:千代田区九段周辺(3月19日～21日)1・2年生
- ・英語合宿:千葉県野田市瀬戸クリアビューホテル(3月29日～3月31日)2年生

< 刊行物 >

「二松だより」第114号～第116号 附属高等学校二松だより編集委員会

『文芸二松』第33号 附属高等学校文芸二松編集委員会

『松螢』第62号 附属高等学校生徒会

『平成29年度卒業記念文集』附属高等学校第68回卒業生

第99回全国高校野球選手権大会出場記念誌

2017 熱き戦いの記録 NEVER GIVE UP!! 頂点に挑んだ夏 二松学舎大学附属高等学校

4. 附属柏中学校・高等学校

(1) 附属柏中学校・高等学校の改革

アクションプランに基づき、①附属柏中学校・高等学校の「ビジョン」浸透 ②「人間(ひと)作り」・人格教育 ③愛校心の育成 ④国際化への対応 ⑤地域との連携 ⑥教育の実践・充実等について検討し改革を推進している。

①「自問自答」をキーワードとし校訓である「仁愛・正義・誠実」と関連させて建学の精神について理解を深める。

②『論語』教育による人格形成のほか、中学校では「沼の教室」「都市の教室」「雪の教室」「世界の教室」などの実体験、高校ではオリエンテーション合宿や芸術鑑賞会、海外研修などにより、「思考力」「判断力」「表現力」を養成し建学の理念の実現を目指す。

③卒業生の芥川賞受賞や、大学創立 140 周年記念事業の一環で制作した漱石アンドロイドによる授業の受講など国語の二松學舎を特に強く生徒にアピールし愛校心の育成に取り組んだ。

④台湾の桃園市私立新興高級中学(高校)やオーストラリアのクリーブランドハイスクールと相互交流をより深めるため交流協定を締結し、短期語学研修を実施した。さらにカナダ、韓国、フィリピンなどでの語学研修を中・高の学年やコースおよび希望者によって行った。

⑤中学校では、「沼の教室」により手賀沼周辺地域施設を活用し、「田んぼの教室」では高校同窓会と連携し、手賀沼のそばに田圃を借り、地域在住の OB の指導により田植え・稲刈りを実施した。

また、高校では福祉施設や幼稚園でのボランティア活動、駅前でのユニセフ募金活動、近隣地域の定期的な清掃活動を行った。

⑥全教室を無線 LAN に対応させるとともに、中学校の電子黒板を充実させ、高校の全ホームルーム教室にプロジェクターを設置した。また、教員のアクティブ・ラーニング研修および「アクティブ・ラーニング推進委員会」を設置するなど教育の充実に取り組んだ。

(2) カリキュラムの充実

本学の建学の理念のもと、附属柏高等学校との中・高を通じた教育の充実と人材の養成するため、新カリキュラムにより教育体系の更なる充実を図っている。また、一人ひとりの学力を確実なものとするため中学校は、少人数教育と目標進路に合わせ個を尊重した「グローバルコース」「特選コース」「選抜コース」を設置し、柏高校では、学力の向上と人間力の向上を目指し、目標実現に向けたコース別授業を実施している。

(3) 教育・学習環境の整備

柏高校では、構内受水槽の耐震化工事のほか、無線 LAN 機器 (Wi-Fi) の拡充、PC 教室及び教員用 PC の機器リプレース、冷水器の設置などを行った。また、中学校ではプロジェクター及び PC の増設、サーバーの新設など IT 機器の拡充を行った。

(4) 広報・生徒募集対策

受験生向けの学校案内パンフレットのリニューアルやホームページでの動画による学校紹介、保護者・受験生対象の学校見学会のほか SNS による情報発信、授業公開や体験授業を行っている。入試広報部を中心に、広報活動、中学・塾等訪問スタッフの配置など募集対策を実施した。

新入生全員がタブレット PC を持ち、自問自答、アクティブ・ラーニング、グローバル人材育成の推進等により、中学校ではハイレベルのグローバルコースへのチャレンジ層が増え、入学者が増加した。

千葉県臨時定員増は当初 2017 (H29) 年度までの計画であったが、本校の位置する第三学区 (柏市・野田市・流山市・我孫子市・鎌ヶ谷市) は、中学校卒業者が引き続き増加する見通しで、2025 年度まで「期限付臨時定員増」を継続することとなり、これに対応すべく定員の変更申請を行い、2025 年度まで臨時定員増 (定員 249→280 名) が認可された。

(5) 生徒支援

入学から卒業までの生徒支援を行うため、父母の会や同窓会との連携を強化し、意見を聴取して学校運営に反映させている。また、生徒の悩みや保護者の相談に対応するため、専門的知識を有するスクールカウンセラーを校内に配置し、教育相談や学園生活のサポートなどメンタルケアを行っている。さらに、ベネッセが提供する生徒の学力と学習習慣をチェックする「スタディーサポート」や模試のデータなどを活用して学習指導や進路指導を行なうプログラムである「ファイナシステム」を使った担任の面談を増やし、タブレットで情報を共有するなどして効果を上げている。

(6) 授業評価等アンケートの実施

自己点検・評価活動の一環として、また、学校を取り巻く環境の変化に対する組織的な取り組みとし

て、生徒による授業評価アンケート、卒業生と保護者の満足度調査を実施し、それに基づく教育の改善を図っている。

(7) 地域・社会との連携

地域貢献として、ネイティブによる小学生対象の英語教室をひと月に2回実施した。また、大学と連携し、教育委員会の後援を得て実施した「大学教授と奈良絵本を読む」や「英語の基礎力」「漢字の基礎力」といった小中学生向けの講座も好評であった。施設面では、OBと大学生が連携した夏休み小学生向け作文教室や書道教室などへの教室貸し出し、また、体育館は柏市の避難施設となっており、地域の避難訓練や集会などに参加し、連携を深めている。

(8) 両附属高校間の連携強化

両校の管理職、部長、主任、若手教員による研修会・懇談会を実施し、新たに任期付きの人事交流の制度を整備した。教育プログラムとしては海外語学研修の共同企画、大学への内部推薦試験の実施があり、文化祭では生徒会や吹奏楽部の相互訪問などを行っている。施設面では柏キャンパスの人工芝グラウンド、体育館の相互利用があり、さらに連携強化を図る。

(9) 校外学習等

- ・沼の教室:「北千葉導水ビジターセンター」千葉県柏市(6月14日)中学1年生
「鳥の博物館」千葉県我孫子市(6月14日)中学1年生
- ・都市の教室:自国の文化への理解を深める「浅草散策」東京都台東区(4月14日)中学3年生
「漱石アンドロイド講演」「昭和館」東京都千代田区(6月13日)中学3年生
「国立科学博物館」東京都台東区(6月14日)中学2年生
「東京江戸博物館」東京都墨田区(6月14日)中学2年生
「漱石アンドロイド授業」東京都千代田区(11月15日)中学1年生
「国立科学博物館」東京都台東区上(11月15日)中学1年生
- ・校外オリエンテーション:千葉県九十九里(4月13日～15日)高校1年生
- ・手賀沼クリーンウォーク(緑道清掃活動)(4月14日)中学1年生
- ・田んぼの教室:千葉県柏市(5月13日田植え～9月9日稲刈り)中学1・2年生
- ・歌舞伎教室:毛抜 国立劇場(6月14日)高校2年生
- ・JICA地球広場ひろば訪問:東京都新宿区(6月24日)中学グローバルコース
- ・芸術鑑賞:ライオンキング 四季劇場(11月11日)高校1年生
- ・修学旅行:台湾(11月6日～10日)高校2年生
- ・海外研修:カナダ バンクーバー(7月9日～26日)中学3年生グローバルコース
韓国 濟州島(7月27日～8月5日)中学2年生
オーストラリア クイーンズランド(8月17日～28日)中学・高校
台湾 台北市(8月17日～23日)高校1・2年生
フィリピン セブ島(2月18日～3月18日)中学2年生グローバルコース
- ・サマーセミナー:東京都中央区晴海(7月27日～30日)高校2年生
- ・古都の教室:京都府・奈良県(11月15日～18日)中学2年生
- ・雪の教室(スキー教室):福島県会津高原(2月7日～10日)中学1年生
- ・世界の教室(石垣島研修旅行):沖縄県石垣市(2月20日～23日)中学3年生
- ・スプリングセミナー:千葉県野田市(3月23日～25日)高校2年生
- ・国内語学研修:福島県岩瀬郡天栄村 British Hills(3月31日～4月2日)中学グローバルコース

< 刊行物 >

「双松」第45号 附属柏高等学校双松編集委員会

「修己治人」第8号 附属柏中学校・高等学校

研究論文集「自問自答」第3号 附属柏中学校

「双松だより」第85号～第88号 附属柏中学校・高等学校父母の会

Ⅲ. 財務の概要

1. 施設設備の整備

大学九段校舎 1 号館中洲記念講堂 AV 機器の整備、図書館情報管理システムの入替え、大学九段 3 号館教室の ICT 機器の更新、大学柏校舎では貯水槽及び柏 1 号館・4 号館高架水槽の耐震化、柏 1 号館 4 階空調設備及び 5 階大教室 AV 設備の更新、学生食堂・売店の改修整備及び外階段新設工事等を実施したほか、大学九段 5 号館として校地及び校舎を取得した。附属高校では九段校舎北面外壁の補修工事、生徒増加に伴う教室の改修及び教育研究用機器備品の整備を実施し、附属柏中学・高校では貯水槽・西校舎高架水槽の耐震化、無線LANの整備、教員用パソコンの更新等を行った。

2. 財務改革の推進

(1) 奨学金制度の充実と第3号基本金の増額

大学・附属高校・附属柏高校・附属柏中学校の学校別に奨学金制度を設けている。奨学金制度の充実のため、当年度奨学基金として受け入れた寄付金は第 3 号基本金に組み入れ、奨学基金を毎年度増額することとしている。本年度は、東日本大震災並びに福島第一原子力発電所事故に伴う被災特別奨学生に対する学納金の減免、経済的困窮学生に対する奨学金、留学生への研究奨励金、交換留学生に対する武永尚子奨学金の給付、中洲賞・特待生への奨学金給付を実施した。

(2) 恒常的な募金活動

本法人では二松学舎教育研究振興資金の募金活動を恒常的に行っている。平成 29 年度は約 1 億円のご寄付をいただき、前年度からの繰越金と合わせて校舎整備、被災学生および経済的困窮学生への支援金(授業料等の減免)の一部として活用し、また、奨学金の基金として第3号基本金に組み入れたほか、残りの資金は平成 30 年度に繰り越すこととした。

(3) 事業会社の事業展開

本法人出資の事業会社である二松学舎サービス㈱は本法人の業務の効率化や経費削減等に寄与している。設立 12 年目を迎え順調に事業を展開しており、同社からは 2,900 万円の寄付があった。

(4) 格付けの取得

格付機関(㈱格付投資情報センター(R&I社))による法人の発行体格付評価を受け、本年度も引き続き「A-」(シングルAマイナス)の格付けを維持した。

(5) 資金の効率的運用

資金の運用に当たっては、資金運用規程及びリスク管理体制に基づき慎重な運用を行い、運用収入を確保した。

3. 資金収支計算書(別紙1)

4. 活動区分資金収支計算書(別紙2)

5. 事業活動収支計算書(別紙3)

6. 貸借対照表(別紙4)

7. 財産目録(別紙5)

8. 主な財務比率(別紙6)

資金収支計算書

平成29年4月1日から
平成30年3月31日まで

(単位:円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	4,108,836,000	4,049,904,726	58,931,274
手数料収入	133,288,000	144,322,538	△ 11,034,538
寄付金収入	116,994,000	132,621,907	△ 15,627,907
補助金収入	962,664,000	963,019,253	△ 355,253
国庫補助金収入	285,882,000	285,884,000	△ 2,000
地方公共団体補助金収入	676,782,000	677,135,253	△ 353,253
資産売却収入	1,723,801,000	1,878,079,953	△ 154,278,953
付随事業・収益事業収入	14,621,000	14,186,660	434,340
受取利息・配当金収入	200,709,000	203,706,832	△ 2,997,832
雑収入	232,114,000	238,283,034	△ 6,169,034
借入金等収入	1,002,250,000	1,002,250,000	0
前受金収入	1,131,130,000	966,121,128	165,008,872
その他の収入	618,481,000	516,773,843	101,707,157
資金収入調整勘定	△ 1,233,777,000	△ 1,244,239,252	10,462,252
前年度繰越支払資金	2,695,817,000	2,695,816,835	
収入の部合計	11,706,928,000	11,560,847,457	146,080,543
支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	3,009,865,000	3,037,903,526	△ 28,038,526
教育研究経費支出	1,395,741,000	1,306,689,882	89,051,118
管理経費支出	575,330,000	527,388,949	47,941,051
借入金等利息支出	20,881,000	20,880,571	429
借入金等返済支出	250,450,000	250,450,000	0
施設関係支出	1,177,577,000	1,175,108,662	2,468,338
設備関係支出	149,608,000	159,008,484	△ 9,400,484
資産運用支出	2,277,079,000	2,554,183,094	△ 277,104,094
その他の支出	195,892,000	203,006,609	△ 7,114,609
予備費	(0)		0
資金支出調整勘定	△ 193,425,000	△ 373,272,870	179,847,870
翌年度繰越支払資金	2,847,930,000	2,699,500,550	148,429,450
支出の部合計	11,706,928,000	11,560,847,457	146,080,543

活動区分資金収支計算書

平成29年4月1日から

平成30年3月31日まで

(単位：円)

		科 目	金 額
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	4,049,904,726
		手数料収入	144,322,538
		特別寄付金収入	132,271,907
		経常費等補助金収入	932,266,253
		付随事業収入	8,727,660
		雑収入	238,283,034
		教育活動資金収入計	5,505,776,118
		支出	人件費支出
	教育研究経費支出		1,306,689,882
	管理経費支出		524,888,403
	教育活動資金支出計		4,869,481,811
	差引		636,294,307
	調整勘定等		26,547,969
	教育活動資金収支差額		662,842,276
施設整備等活動による資金収支	科 目		金 額
	収入	施設設備寄付金収入	350,000
		施設設備補助金収入	30,753,000
		施設整備等活動資金収入計	31,103,000
	支出	施設関係支出	1,175,108,662
		設備関係支出	159,008,484
		施設整備等活動資金支出計	1,334,117,146
	差引		△ 1,303,014,146
	調整勘定等		△ 16,400,572
	施設整備等活動資金収支差額		△ 1,319,414,718
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)		△ 656,572,442	
その他の活動による資金収支	科 目		金 額
	収入	借入金等収入	1,002,250,000
		有価証券売却収入等	1,878,079,953
		特定資産取崩収入	270,206,203
		上記以外の収入	91,575,056
		小計	3,242,111,212
		受取利息・配当金収入	203,706,832
		上記以外の収入	5,459,000
		その他の活動資金収入計	3,451,277,044
		支出	借入金等返済支出
	有価証券購入支出等		2,202,732,102
	特定資産繰入支出		257,107,475
	上記以外の支出		57,518,095
	小計		2,767,807,672
	借入金等利息支出		20,880,571
	上記以外の支出		2,500,546
	その他の活動資金支出計		2,791,188,789
	差引		660,088,255
	調整勘定等		167,902
その他の活動資金収支差額		660,256,157	
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)		3,683,715	
前年度繰越支払資金		2,695,816,835	
翌年度繰越支払資金		2,699,500,550	

事業活動収支計算書

平成29年4月1日から
平成30年3月31日まで

(単位:円)

		科目	予算	決算	差異
教育活動 収入	事業活動収入	学生生徒等納付金	4,108,836,000	4,049,904,726	58,931,274
		手数料	133,288,000	144,322,538	△ 11,034,538
		寄付金	116,994,000	132,271,907	△ 15,277,907
		経常費等補助金	932,264,000	932,266,253	△ 2,253
		付随事業収入	9,162,000	8,727,660	434,340
		雑収入	232,114,000	238,379,034	△ 6,265,034
		教育活動収入計	5,532,658,000	5,505,872,118	26,785,882
	事業活動支出	科目	予算	決算	差異
		人件費	2,991,810,000	3,017,494,532	△ 25,684,532
		教育研究経費	2,058,540,000	1,953,651,311	104,888,689
		管理経費	609,736,000	558,021,803	51,714,197
		徴収不能額等	7,873,000	7,132,000	741,000
		教育活動支出計	5,667,959,000	5,536,299,646	131,659,354
		教育活動収支差額	△ 135,301,000	△ 30,427,528	△ 104,873,472
教育活動外 収入	収入	科目	予算	決算	差異
		受取利息・配当金	200,709,000	203,706,832	△ 2,997,832
		その他の教育活動外収入	5,459,000	5,459,000	0
		教育活動外収入計	206,168,000	209,165,832	△ 2,997,832
	支出	科目	予算	決算	差異
		借入金等利息	20,881,000	20,880,571	429
		その他の教育活動外支出	0	2,500,546	△ 2,500,546
		教育活動外支出計	20,881,000	23,381,117	△ 2,500,117
	教育活動外収支差額	185,287,000	185,784,715	△ 497,715	
	経常収支差額	49,986,000	155,357,187	△ 105,371,187	
特別 収入	収入	科目	予算	決算	差異
		資産売却差額	137,760,000	137,775,360	△ 15,360
		その他の特別収入	35,962,000	39,404,947	△ 3,442,947
		特別収入計	173,722,000	177,180,307	△ 3,458,307
	支出	科目	予算	決算	差異
		資産処分差額	6,112,000	14,062,809	△ 7,950,809
		その他の特別支出	3,417,000	0	3,417,000
		特別支出計	9,529,000	14,062,809	△ 4,533,809
	特別収支差額	164,193,000	163,117,498	1,075,502	
	[予備費]	(0)		0	
基本金組入前当年度収支差額	214,179,000	318,474,685	△ 104,295,685		
基本金組入額合計	△ 458,088,000	△ 494,603,524	36,515,524		
当年度収支差額	△ 243,909,000	△ 176,128,839	△ 67,780,161		
前年度繰越収支差額	△ 2,787,240,000	△ 2,787,239,589	△ 411		
翌年度繰越収支差額	△ 3,031,149,000	△ 2,963,368,428	△ 67,780,572		
(参考)					
事業活動収入計	5,912,548,000	5,892,218,257	20,329,743		
事業活動支出計	5,698,369,000	5,573,743,572	124,625,428		

貸借対照表

平成30年3月31日

(単位:円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	23,400,720,482	21,857,721,297	1,542,999,185
有形固定資産	18,678,636,851	18,024,647,727	653,989,124
土地	6,170,752,610	5,159,337,897	1,011,414,713
建物	9,854,470,593	10,213,076,581	△ 358,605,988
図書	2,129,680,074	2,094,291,858	35,388,216
その他の有形固定資産	523,733,574	557,941,391	△ 34,207,817
特定資産	1,557,525,898	1,570,624,626	△ 13,098,728
第3号基本金引当資産	465,249,000	457,131,000	8,118,000
退職給与引当特定資産	980,571,032	1,000,980,026	△ 20,408,994
その他の特定資産	111,705,866	112,513,600	△ 807,734
その他の固定資産	3,164,557,733	2,262,448,944	902,108,789
有価証券	2,673,159,059	1,949,319,688	723,839,371
その他	491,398,674	313,129,256	178,269,418
流動資産	5,930,144,390	6,273,900,227	△ 343,755,837
現金預金	2,699,500,550	2,695,816,835	3,683,715
有価証券	3,014,792,144	3,395,113,306	△ 380,321,162
その他の流動資産	215,851,696	182,970,086	32,881,610
資産の部合計	29,330,864,872	28,131,621,524	1,199,243,348
負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	3,014,750,101	2,339,861,756	674,888,345
長期借入金	2,007,250,000	1,310,550,000	696,700,000
退職給与引当金	980,571,032	1,000,980,026	△ 20,408,994
長期未払金	26,929,069	28,331,730	△ 1,402,661
流動負債	1,892,456,784	1,686,576,466	205,880,318
短期借入金	305,550,000	250,450,000	55,100,000
未払金	352,678,315	175,601,739	177,076,576
前受金	970,447,960	1,051,329,992	△ 80,882,032
預り金	263,780,509	209,194,735	54,585,774
負債の部合計	4,907,206,885	4,026,438,222	880,768,663
純資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
基本金	27,387,026,415	26,892,422,891	494,603,524
第1号基本金	26,554,777,415	26,068,291,891	486,485,524
第3号基本金	465,249,000	457,131,000	8,118,000
第4号基本金	367,000,000	367,000,000	0
繰越収支差額	△ 2,963,368,428	△ 2,787,239,589	△ 176,128,839
翌年度繰越収支差額	△ 2,963,368,428	△ 2,787,239,589	△ 176,128,839
純資産の部合計	24,423,657,987	24,105,183,302	318,474,685
負債及び純資産の部合計	29,330,864,872	28,131,621,524	1,199,243,348

財 産 目 録

平成30年3月31日

I 資産総額	29,330,864,872 円
内 基本財産	18,686,269,467 円
運用財産	10,644,595,405 円
II 負債総額	4,907,206,885 円
III 正味財産	24,423,657,987 円

区 分	金 額
資産額	
1 基本財産	
土地	125,511.77 m ² 6,170,752,610 円
建物	59,046.19 m ² 9,854,470,593 円
構築物	184 件 212,141,311 円
図書	402,872 冊 2,129,680,074 円
教具・校具・備品	20,082 点 292,392,260 円
その他	26,832,619 円
2 運用財産	
現金預金	3,080,580,550 円
特定資産	1,557,525,898 円
有価証券	5,687,951,203 円
未収入金	190,104,092 円
貸付金	4,800,000 円
差入保証金	35,066,640 円
収益事業元入金	55,268,095 円
前払金	29,520,980 円
その他	3,777,947 円
資産総額	29,330,864,872 円
負債額	
1 固定負債	
長期借入金	2,007,250,000 円
退職給与引当金	980,571,032 円
長期未払金	26,929,069 円
2 流動負債	
短期借入金	305,550,000 円
前受金	970,447,960 円
未払金	352,678,315 円
預り金	263,780,509 円
負債総額	4,907,206,885 円
正味財産(資産総額－負債総額)	24,423,657,987 円

財務比率

1. 貸借対照表関係比率

(%)

財務比率	学校法人二松学舎			全国平均
	計算式(×100)		平成28年度	
固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	77.7	79.8	86.7
有形固定資産構成比率	$\frac{\text{有形固定資産}}{\text{総資産}}$	64.1	63.7	61.2
特定資産構成比率	$\frac{\text{特定資産}}{\text{総資産}}$	5.6	5.4	21.4
流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	22.3	20.2	13.3
固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	8.3	10.3	7.1
流動負債構成比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	6.0	6.5	5.3
内部留保資産比率	$\frac{\text{運用資産} - \text{総負債}}{\text{総資産}}$	20.8	18.5	24.2
運用資産余裕比率	$\frac{\text{運用資産} - \text{外部負債}}{\text{経常支出}}$	1.5	1.3	1.8
純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	85.7	83.3	87.6
繰越収支差額構成比率	$\frac{\text{繰越収支差額}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	-9.9	-9.5	-14.2
固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	90.7	95.8	98.9
固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産} + \text{固定負債}}$	82.7	85.3	91.5
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	372.0	313.4	252.2
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	14.3	16.7	12.4
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	16.7	20.1	14.2
前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	256.4	278.2	345.8
退職給与引当特定資産保有率	$\frac{\text{退職給与引当特定資産}}{\text{退職給与引当金}}$	100.0	100.0	69.2
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	94.9	92.6	97.3
減価償却比率	$\frac{\text{減価償却累計額(図書を除く)}}{\text{減価償却資産取得額(図書を除く)}}$	46.8	49.3	49.6
積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	90.2	89.6	78.9

2. 事業活動収支計算表関係比率

(%)

財務比率	学校法人二松学舎			全国平均
	計算式(×100)		平成28年度	
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	54.1	52.8	53.6
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	72.1	74.5	72.8
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	34.4	34.2	33.0
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	9.2	9.8	9.0
借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	0.4	0.4	0.2
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	7.0	5.4	4.9
基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入} - \text{基本金組入額}}$	101.4	103.3	107.8
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	75.0	70.9	73.7
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	1.0	2.3	3.0
経常寄付金比率	$\frac{\text{教育活動収支の寄付金}}{\text{経常収入}}$	0.8	2.3	1.9
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	15.7	16.3	12.3
経常補助金比率	$\frac{\text{教育活動収支の補助金}}{\text{経常収入}}$	16.4	16.3	12.0
基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	8.2	8.4	11.8
減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	12.8	11.9	11.8
経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常支出}}$	1.7	2.7	4.1
教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入}}$	-0.6	-0.6	2.7

3. 活動区分資金収支計算書関係比率

(%)

財務比率	学校法人二松学舎			全国平均
	計算式(×100)		平成28年度	
教育活動資金収支差額比率	$\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入計}}$	13.8	12.0	14.2

注) 「全国平均」は日本私立学校振興・共済事業団の集計による医歯系を除く507大学法人の平均を示す。

監査報告書

平成30年5月21日

学校法人 二松学舎

理事会 御中

評議員会 御中

学校法人 二松学舎

監事 瀧田 泰夫 

監事 根本 義尚 

私たちは、学校法人二松学舎の監事として、私立学校法第37条第3項に基づいて、学校法人二松学舎の平成29年度（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）における計算書類（資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表並びに附属明細表）及び学校法人の業務執行状況について監査を行いました。

監査の結果、私たちは上記の計算書類は学校法人会計基準（文部科学省令第15号、平成25年4月22日公布）に準拠しており、学校法人二松学舎の平成30年3月31日現在の財産状態及び同日をもって終了する会計年度の経営状況を適正に表示しているものと認めました。また、学校法人の業務執行状況に関する不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する事実のないことを確認いたしました。

以上